

教育メディアの研修の実施（仮想実験として）に際して、
『15年度案』の有用性に関するご意見／質問

記述者氏名 _____ 所属機関 _____

1 研修の目的： _____

研修対象： _____

研修者の能力や経験など _____

(例えば、キーボードが打てるくらい)

評価の方法： _____

2 研修カリキュラムの作成

①カリキュラム作成において、研修内容の選択性（研修実施者による選択方式）の是非（適切／不適切）： _____

②研修内容：（ほとんど記載されていた／記載されていなかった）

『15年度案』報告書に記載されていなかったもの： _____

③研修事例（「目的別研修事例」、または「対象者別研修事例」が有用であったなど）

事例としてこういうものが望ましい： _____

不要である： _____

3 研修の評価の方法

『標準案』に評価に関する記述が欲しい： _____

または、標準案のマニュアルに評価に関する記述が必要： _____

評価に関する記述は不要： _____

- 4 次年度のための「仮想研修計画の作成」の作業で、『15年度案』は有用、または使い易かったかどうか。

有用である：(そのわけ) _____

あまり有用ではなかった(そのわけ) _____

使い易かった/使い難かった(そのわけ) _____

- 5 『15年度案』一般に関して

- (1) 「教育メディアカリキュラムの標準」(文科省などのような公的機関の設定するもの)の必要性(要/不要)について

- (2) 「教育メディアカリキュラムの標準」の研修実施のための基礎資料としての必要性について

- (3) 研修内容の選択性(基準とはいっても、研修実施者による選択方式)を採用したことについて

- (4) 「標準」は一定基準を示すという意味からすると、研修内容の固定化は必然ということについて

- (5) 研修実施主体、例えば、市町村、都道府県、文部科学省などの分担性について

- (6) 研修内容に関して、研修項目、事項に加えて、「研修細目」と「学習事項」（研修細目のための参考表で、かなり細かく示していることについて）を記載することについて
- (7) 研修事例を示すことの是非について。もしも研修事例を載せるとしたら、事例数の数の当否、もしも事例を加えればどんな事例が適切か
- (8) 日進月歩のメディア状況において、「標準」および研修内容の加除修正の方法と周知の方法について
- (9) この『標準』の活用に関して、マニュアル、または解説書の類の必要性について
- (10) 各研修団体間の、例えば研修計画など情報交換、または協力態勢の必要性と、必要であればその方法について
- (11) その他、お気づきのことをご自由にお願ひします。

6 次年度のための仮想的研修事例の貼付